

四年の社会科「足利の暮らし」 の展開とこどもに与えた資料

柳原小学校 竹川美江

1年間の社会科学習内容と「足利の暮らし」の位置

1、私たちのこども会 (4月)	8時
2、足利市と栃木県	2時
3、宇都宮旅行 (5月)	28時
4、農村の暮らし (6、7月)	24時
5、山地の暮らし (9月)	16時
6、五十里ダムと那須野が原 (10、11月)	27時
銅の町 足尾 (12月)	11時
7、絹と織物 (◎足利の暮らし (1、2月上旬) 栃木県の工業 (2月中旬))	33時 5時
8、栃木県の交通 — 交通の発達 (2月下旬 3月上旬)	15時
9、土地と暮らしのくふふ (3月中・下旬)	12時

2 小单元「足利の暮らし」のねらいと子供達

◎ 特色ある鉾山町足尾の学習をしたあとで私達の郷土足利市の暮らしについて学び、工業地足利の特色や、発達の様子、特に足利織物について理解させ、地域の特性に応じた生活や、暮らしをよくする為の人々の努力について考えさせ、自分達も、市を愛し、市を発展させて行こうとする意欲を育てて行く事を目的としている。

◎ 子供達は3年の時、足利について、くわしく学習するはずであつたが、資料も不足のまま、東書の教科書「新しい社会」に準じたカリキュラムをたて、大昔の生活や、いろいろな土地の暮らしを、自分達の日常生活と結びつけて考えて来た。4年になつて4月の頃、簡単に足利について扱つたが、郷土足利について理解は、はなはだ不十分であり、1年生の時からの担任としての責任を痛感していた。この際この教材をより広く根を深く学習させ、郷土に対する認識を一層深めさせる必要を感じた。今まで栃木県の学習を進めて来たが、非常に関心も深く、熱意もあり、3年生の時より理解度も増して来たので、盛り沢山の教材も、それほど困難ではないと思う。

3 学習の資料の現状とプリント資料の必要性

1、郷土の生活 のびゆく栃木県 (学校備品、児童用、2人で1冊以上)

足利めいせん (P76-88)

機業の町足利、機業の5つりかわり

四年の社会科「足利の暮らし」 の展開と子どもに与えた資料

柳原小学校 竹川美江

1年間の社会科学習内容と「足利の暮らし」の位置

1、私たちのこども会 (4月)	8時
2、足利市と栃木県	2時
3、宇都宮旅行(5月)	28時
4、農村の暮らし(6、7月)	24時
5、山地の暮らし(9月)	16時
6、五十里ダムと那須野が原(10、11月)	27時
銅の町 足尾(12月)	11時
7、絹と織物 ◎足利の暮らし(1、2月上旬) 栃木県の工業(2月中旬)	33時 5時
8、栃木県の交通—交通の発達(2月下旬 3月上旬)	15時
9、土地と暮らしのくふ5(3月中・下旬)	12時

2. 小単元「足利の暮らし」のねらいと子供達

◎ 特色ある鉱山町足尾の学習をしたあとで私達の郷土足利市の暮らしについて学び、工業地足利の特色や、発達のようす、特に足利織物について理解させ、地域の特性に合った生活や、暮らしをよくする為の人々の努力について考えさせ、自分達も、市を愛し、市を発展させて行こうとする意欲を育てて行く事を目的としている。

◎ 子供達は3年の時、足利について、くわしく学習するはずであつたが、資料も不足のまま、東書の教科書「新しい社会」に準じたカリキュラムをたて、大昔の生活や、いろいろな土地の暮らしを、自分達の日常生活と結びつけて考えて来た。4年になつて4月の頃、簡単に足利について扱つたが、郷土足利について理解は、はなはだ不十分であり、1年生の時から担任としての責任を痛感していた。この際この教材をより広く根を深く学習させ、郷土に対する認識を一層深めさせる必要を感じた。今まで栃木県の学習を進めて来たが、非常に関心も深く、熱意もあり、3年生の時より理解度も増して来たので、盛り沢山の教材も、それほど困難ではないと思う。

3. 学習の資料の現状とプリント資料の必要性

1、郷土の生活 のびゆく栃木県(学校備品、児童用、2人で1冊以上)

足利めいせん(P76-88)

機業の町足利、機業のうつりかわり

- 2、社会科地図帳（各児所持、P20-21）
- 3、栃木県地図（各児 $\frac{1}{35万}$ のもの所持、 $\frac{1}{185万}$ のもの学級備品、10枚）
- 4、足利市全図 白地図（社会科研究会印刷各児2枚宛、 $\frac{1}{5万}$ 掲示用1枚）
- 5、日本全図 白地図（社会科研究会印刷、各児2枚）
- 6、私達の栃木県（足利学校P96-97、繊維工業P167-172 図書館蔵書60冊、やや難解）
- 7、新しい社会（児童教科書）4年下
 - 大むかしからの生活
 - 1、着物の5つりかわり 2、食べものの5つりかわり 3、家の5つりかわり
 - 大きな町
 - 1、わたしたちの町しらべ 2、いろいろな町
 - 土地とくらしのくふう
 - 5、わたしたちの住んでいる町
- 8、あしかが（教授資料）1957年 足利市教育研究所編、（各級1冊、教師用）
- 9、栃木県の歴史「郷土の生いたち」学級1冊
- 10、小学校4年用 社会科郷土資料集（学級2冊）
- 11、市勢要覧 昭和32年版 足利市（学級2冊）

※ 以上、色々資料の数は多いが、足利についてのくわしい記録は、「あしかが」と、市勢要覧に頼るほかはなく、冊数が少ないので、児童に手分けして調べさせるには、非能率的であり、実際に調べて歩くのも迷惑をかける事が多く、又折角グラフや表が出来ても、全部の児童に、要点の把握や記録が出来るかどうか心もとないものである。

そこで、子供達と相談して立てた学習計画に基いて、必要な資料を数多くガリ版印刷して、ガイドブック的に用いさせ、これに書き込みや色ぬりをしたり、或いは又、グループで分担して図表化して、研究討議の資料として用いようと計画した。豊富な正しい資料は、子供の考える力を助け、活発な学習活動に導くのに、ぜひ必要と思つたからである。

4. 学 習 の 計 画

学 習 の 計 画

○ 足利の特色をしらべよう

1. 足利の自然（位置、土地のよさ、まわりの町村、気候、しぜんめぐみ） 2時間

2. 職業のよさ

（ 足 利 全 市
学 級
学 年

3時間

どんな職業が多いか

どうしてだろう

3時間

④ 足利の産物

1時間

4. 足利のけいざい

○ 足利の織物についてくわしく調べよう

1. 織物かんけいの仕事をしている家の数

2時間

2. 昔の足利織物と今のようす

7時間

足利めいせん

今の製品

織物のできるまで 織物工場見学

3. 関東地方の機業地

1時間

なぜこの地方が織物産地として栄えたか

○ 足利の発達(5つりかわり)

1. 昔のようす 工業

2時間

2. 暮らしの5つりかわり(衣食住、交通、商業、人口)

8時間

3. 足利学校、ぼんな寺をたずねよう

2時間

○ いろいろな町の発達のようすをしらべよう。

2時間

○ 学習の計画と資料

郷土の生活の教科書、昭和28年度の6年生の研究物「足利の工業」掲示用足利地図を用いた。

子供は非常に熱心に、いろいろ調べたい事柄を提案した。

5. 学習を進めて行くための資料と反省

足利の暮らし

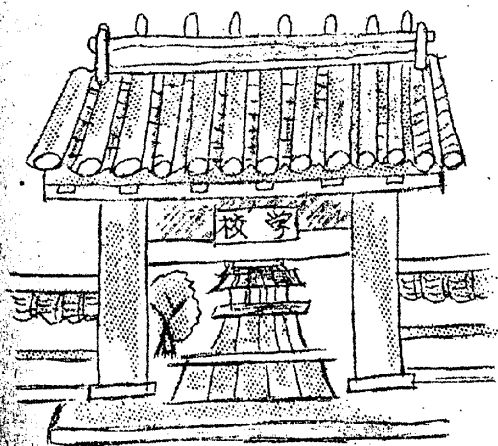
1. 足利の特色しらべ

- (1) 足利のしぜん(位置、地形、まわりの町村、気候、しぜんのめぐみ)

資料 社会科地図帳(P20-21)足利市の白地図 $\frac{1}{5万}$ 、児童数、足利市の地勢図(掲示用)

新しい社会(わたしたちの住んでいる町 P111-113)

プリント P1 P2



一、足利の特色 (よそとちが5所) しちべ
すぐれてよい所

1 足利のしぜんのようすをしらべましょう

- 位置
 - 日本全体のどのへんにありますか
やや中央
 - 関東地方のどのへんですか
中央より少し北西
 - 栃木県のどのへんにありますか
南 西

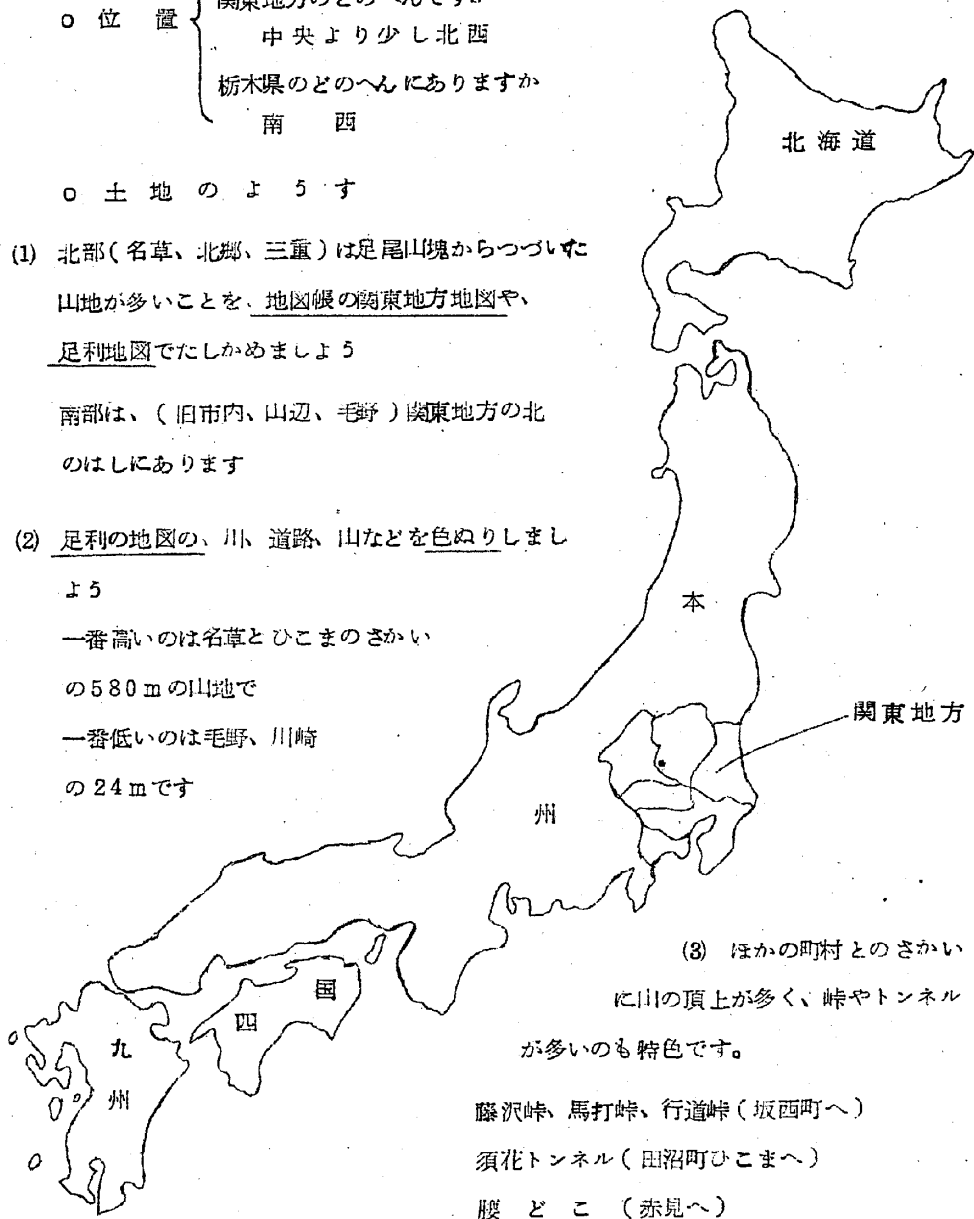
○ 土地のようす

- (1) 北部(名草、北郷、三重)は足尾山塊からつづいた
山地が多いことを、地図帳の関東地方地図や、
足利地図でたしかめましょう

南部は、(旧市内、山辺、毛野)関東地方の北
のはしにあります

- (2) 足利の地図の、川、道路、山などを色ぬりしまし
よう

一番高いのは名草とひこまのさかい
の580mの山地で
一番低いのは毛野、川崎
の24mです



(3) ほかの町村とのさかい
に川の頂上が多く、峠やトンネル
が多いのも特色です。

- 藤沢峠、馬打峠、行道峠(坂西町へ)
- 須花トンネル(田沼町ひこまへ)
- 腰どこ(赤見へ)

(4) わたらせ川は市の南部、西から東へ、ゆるやかに流れています。

北部の山地から、松田川、名草川、袋川がわたらせ川にそそいでいます。

(5) どんな地いきにわかれていますか

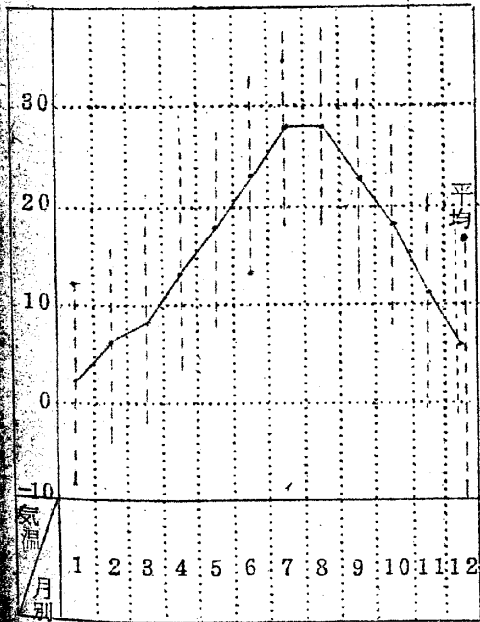
旧市内 毛野地区 山辺地区 山前地区 三重地区
北郷地区 名草地区

(6) まわりにどんな町村がありますか

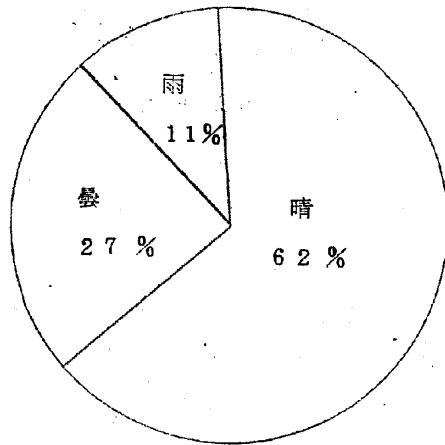
東 (富田村 佐野市)
西 (坂西町 毛里田村)
南 (みくりや町 矢易川村)
北東 (田沼町)

(7) 天気のように、1年間の気温なども考えてみましょう。

昭和30年1~12月 月別平均気温



昭和30年1月~12月
東校しらべ



反省 日本地図の中から足利の位置をすぐ見わけられない者が、まだあるのに驚いた。足利の白地図の色ぬりは案外に時間がかかり、山の高さのぬりわけに苦勞をした。色鉛筆を用いたら、時間はかかったが、きれいに出来て、高地と低地の区別がよくわかった。 $\frac{1}{5}$ 万の白地図は非常に見易くて便利であった。まわりの町村しらべは、東西南北とはつきり区切つた為に、田沼町の場合など子供は困つていたようだ。柳原校から見て位置を定めさせた。(しぜんのめぐみ)については、職業しらべの後に扱う事とした。

(2) 職業のよす(足利市の職業別世帯数、学級、学年の職業しらべとその考察)

資料 プリント

版 3、4、5、6

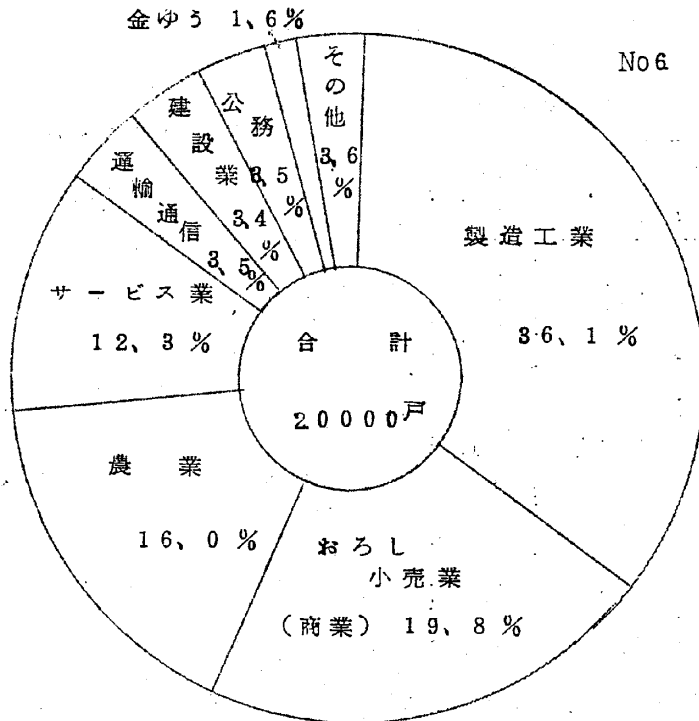
郷土の生活

機業の町 足利

職業別、家の数

昭和30年10月1日

(あしかが)より



足利の職業しらべ

昭和30年国勢調査

あしかがより

No. 3

職業別	しらべるはんい	足利全市の家の職業	学級の家族のしごと	学年の家族のしごと
製 造 工 業	ぼうせき業(はたおりせしけい)	7406	25	90
	染色業		6	23
	ほうせい業		11	91
	図案かたがみ		1	7
	化学工業(ゴム)		3	26
	金ぞく、きかい、工業		4	25
	竹、木工品		4	11
	紙製品		1	4
	印刷、製本			7
	食料品			10
その他の工業	5	14	計308	
商業	4068	25	122	
農業	3281	2	15	
けんちく、土木	698	3	20	
交通、通信	709	3	19	
銀行、質屋、ほけん	319	2	16	
公務員(けいさつ、市役所、せいむ所、先生)	688	5	31	
サービス業(パチンコやその他)	2526		89	
鉱業(マンガン)	34			
林業(きこり、すみやき)	11			
その他	9	2	47	
無職	788	1	2	
内職		6	33	
計	20537	109	652	

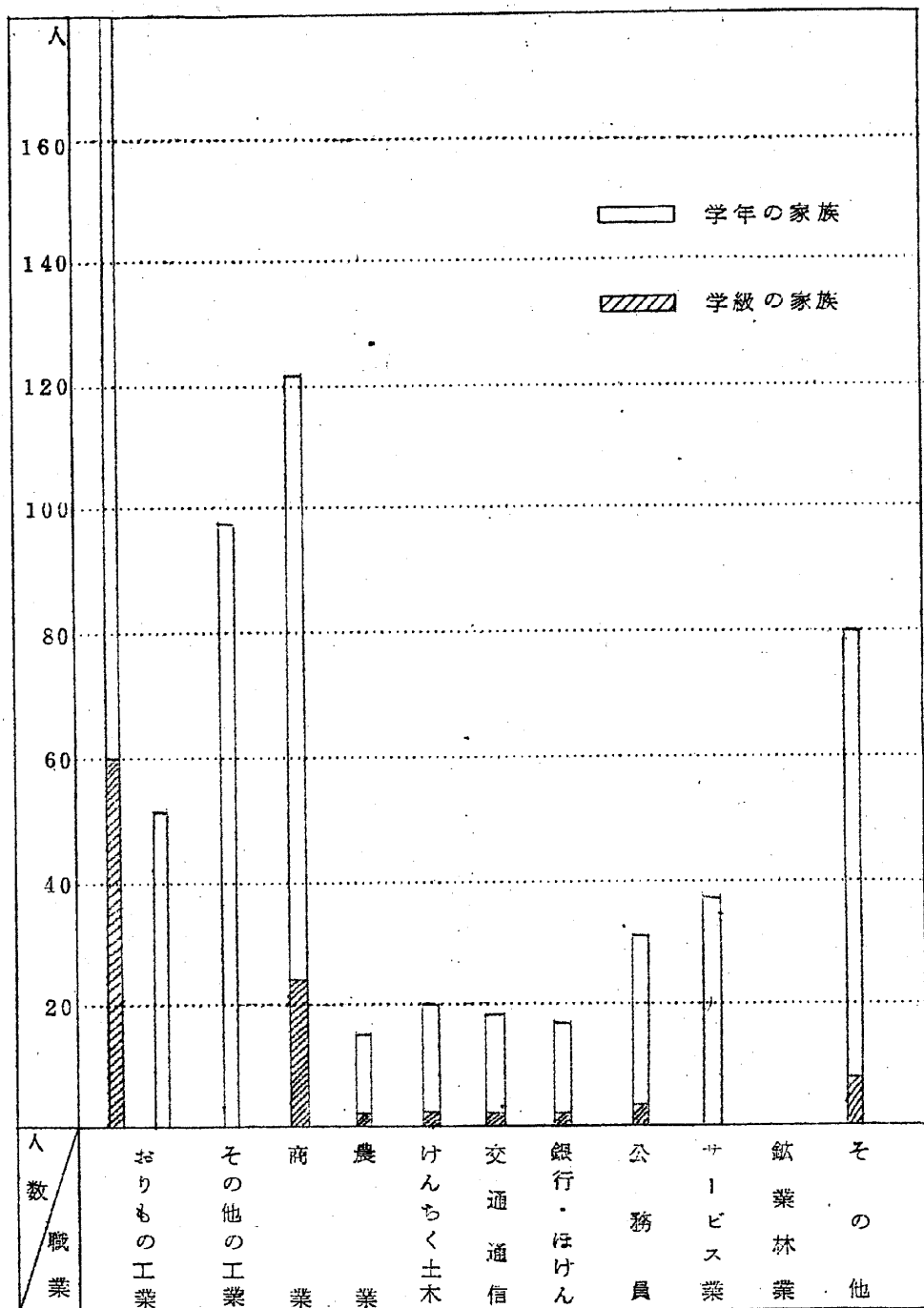
資料

父のいる、母や兄弟を含めず

在籍 396

学級と学年の家族の職業

No4



1. なぜ足利に製造工業が多いのだろうか
 また、とくに織物工業がさかんなのだろうかそのわけを考えてみよう。
 (次のことがらの中で工業がさかんな原因にかんけいがあると思われるものに○をつけなさい)
- ㉠ 両毛線、東武伊勢崎線が通つていて、交通が便利なこと
 - ㉡ わたらせ川が流れていて昔は色をそめた布をさらすのに便利であつたり、船で品物を江戸の方へはこぶのにつごうがよかつた
 - ㉢ よいけしきで、見物にくるお客が多い
 - ㉣ まわりにようさん(かいこを育ててまゆをとる)のさかんな村が多い
 - ㉤ 広い平地が多く、農業がさかんであること
 - ㉥ 土地の広さのわりに人口が多く、工業(物を作る)でくらすよりほかに、自然のめぐみが少ない
 - ㉦ 有名な、ばんな寺や足利学校がある
 - ㉧ 鉱山がある
 - ㉨ このごろ道路がよくなり、トラックやオート三輪車で原りよすや、できあがつた品物を、たやすくはこべるよになつた

2. その他、職業しらべのけつか、かんじたこと、

自由にかく(商業がわり合多い、人口が多いため
 4の5では、つとめ人(事務関係)が多かつた。

〔省〕 職業しらべは面白かつた。学年の集計が出ると、待つてましたとばかりグラフ作り、7人の子供は指導を要したが、あとは自力で目盛りを定めグラフを作つて、話し合いも活発だつた。家の職業(戸主の)を調べず、(家族の)としたのは、母や元姉が働いている家庭が多く、戸主の職業に限定すると、3人工場で働いていても1人に教えねばならず、特に織物関係は婦女子の従業が多いのでこうしてみた。「あしかが」も市勢要覧も、世帯の職業きり出ていないので、全市のものは、それを利用した。その後の話し合いの資料NO5は、子供からいろいろの意見をひき出して後に与えたがかなりの抵抗があつた。

〔8〕 足利の産物 (概要をつかませる)

〔資料〕 NO6、7、8、9 社会科地図帳P39

郷土の生活P84、栃木県の工業

(3) 足利の生産物

○足利でどんな物が作られているのだろうか、じつさいの製品を集め合つて、よくわかるようにしよう

① おりもの工業

◎ ゆ出おりもの

スパンクレープ、シルクオーガンジー、ふじぎぬ、シヤンタン、オパール、ジョーゼット、じんけんタフタ、じんけんこうし、ハンカチーフ、ケドビークーシよく、下着、ふじん用くつ下、ジャージー、セーター、ウーリーナイロン(内地にも売り出されている)

◎ 内地何おりもの

正絹めいせん、交織めいせん、併用めいせん、ゆうきおり、もんおめし、きんしや、夜具地、たんせん地、かせんふく地

② 化学工業

アキレス 興国化学 日本ゴム

ゴムせいひん(ゴムぞこズツくつ、ゴム長くつ、地下たび、ベルト、レインコート)

ビニールせいひん(かわ代用レザー、アキレスビニールくつ、ビニールレコード)

③ きかい、金ぞく工業

イ、きかい工場

おりものせいりきかい、おりものじゆんびきかい、おりものをはかるきかい、はたおりきかい、いもの(織機 ストープ ごとく ひばち) きかい部品、きかいしゆり、せい粉きかい、せい葉きかい

ロ、板金工場

水筒、なべ、べんとう箱、せんめんき、ごはんむし、やかん、おぼん、おろしがね、ボール、きゆりす、

4. リム工業

No7

東海リム工場(自転車、自動車のリム)

5 製紙工業

東興製紙工場(わら半紙、仙花紙)
読売紙聞の紙

6 木、竹工業 家具、ざる、その他、ポピン

7 いんさつ、せい本工業

学校新聞、文集、広告、その他

8 パンと菓子せいそう工業

9 製麦、製めん

10 その他、近所の工場のできるもの

町内別分担 絵地図作り ◎足利地図に主な工場を記入

反省

私自身、織物産地という以外に、こんなに沢山、色々の工業が発達しているのに驚いた。

足利の工業生産高 (昭和30年度
あしかがより)

1044737千円(合計)

304000千円

5%以下

生産高

工業の種別

15594千円

その他の工業

141千円

揚返し業

269千円

糸張業

1034千円

メリヤス賃編はりせい

1573千円

合成樹脂工業

238千円

図案型紙

2656千円

その他のせんい工業

3855千円

整経業

795千円

印刷業

1073千円

木・竹製品

1273千円

パン及び菓子製造

3212千円

婦人子供服製造加工

3840千円

織物質織業

2053千円

整理業

2623千円

その他の食料品

2025千円

精麦せいめん業

2930千円

染料加工業

3345千円

紙製品工業

5260千円

プレス及び鋳金業

3676千円

染色業

4269千円

燃糸業

きかいきく工業

1300千円

メリヤス製造業

2155千円

ゴム工業

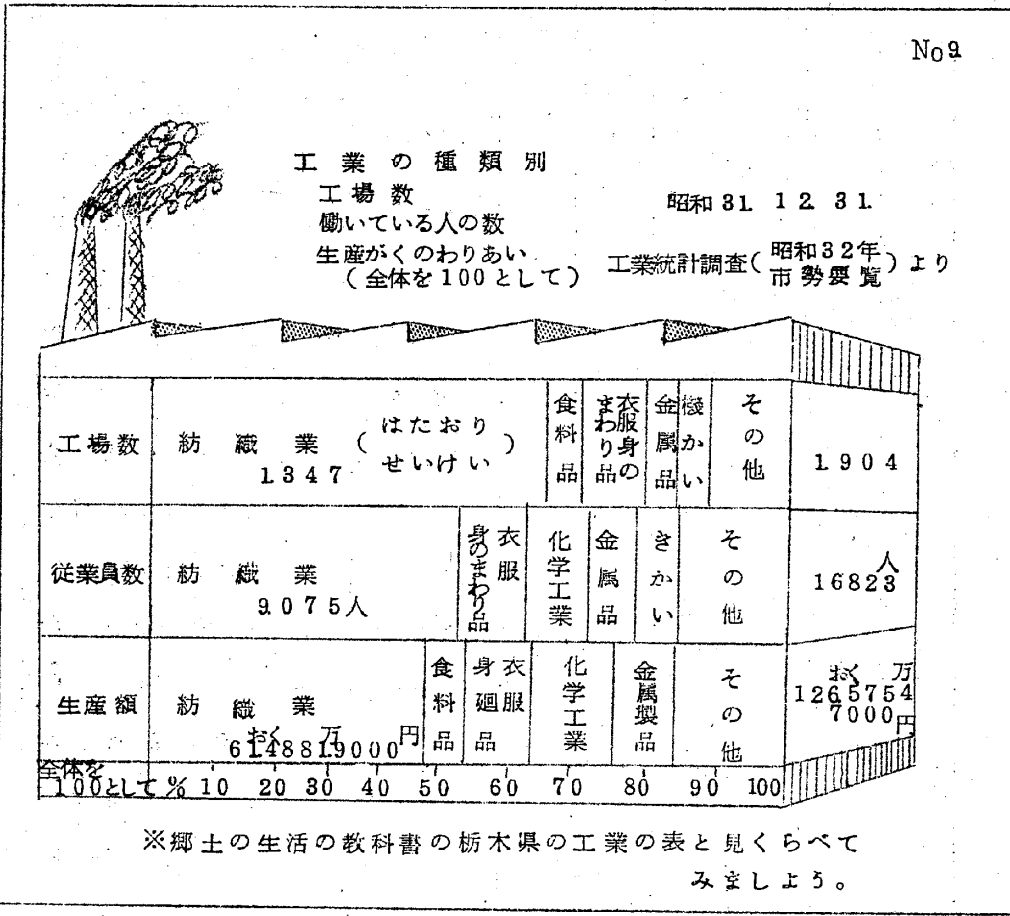
織物製造業

1515千円

反省の 2

子供達の家庭には、かなり多くの参考品がある。サンプルや製品が、沢山集まった。

No9



(4) 足利のけいさい

資料 職業しらべの表、郷土の生活P75、NO8のプリント

反省 地域的に柳原区域は織物関係が比較的多く、織物の売れ行きが家の経済に大きな影響を与える事を体験している子供が多い。しかし経済的な事を、あまり発表しなかった。

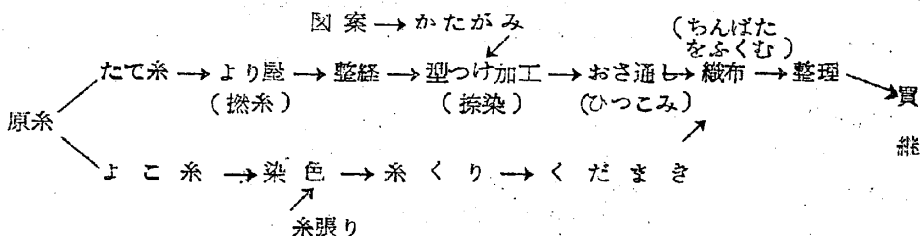
2. 足利の織物について

(1) 織物関係の仕事をしている人の数

資料 学級、学年の職業しらべNO4 プリントNO10のプリント NO9プリント

1. 織物かんけいの仕事のいろいろ

仕 事 の 種 類	事 業 所 数		
	会社組合	個人経営	従業員数
織物製造業 (糸を買って、もようの布をおる 下おりして加工屋にたのみな本おりする)	42	119	2698
織物質織業 (大きな工場にたのまれて云われた通り 大きな工場にたのまれて云われた通り ヘタを織りお金をもらう)	9	615	1718
撚糸業 (蚕の糸や、人けん糸、などを、より合 わせて、おり糸を作る)	11	65	557
糸張業 (そめた糸をピンとはつてほし、せいけ い屋にはこぶ)	0	31	58
整経業 (すがになつた糸をボビンにまきとり、 たて、よこの長さをきめて玉を作る)	2	107	396
揚返し業 (ボビンの余つた糸をまたすがにして そめなおす。)	0	20	48
染色業 (すがになつた糸を、1色又は2色8色 にそめる)	34	106	1094
捺染加工業 (下おりした糸に、カタガミを使つて、 もようをつける)	20	93	967
整理業 (できあがつた織物の長さや巾をそろえ、 つつにまいたり、とじたりする)	5	4	478
メリヤス製造業 (メリヤスを織る)	32	19	1550
婦人子供服製造業 (かたをとり、ぬいあげて洋服を作る)	8	53	369
メリヤス質編業 (大きな工場にたのまれてメリヤスをおる)	3	29	116
その他のせんい工業	1	28	99
計	187	1289	10141



足利の旧市内に、ほとんどの工場が集っている。個人経営の、小中工場が多く、大きな会社そしきの工場は少ない

反省 私自身、織物関係の仕事に暗く、その内容がわからないので、四方に聞いて歩いた。NO9の表、NO4のプリントと対照して学習させたが、児童には、(中小工場が多く大工場が少ない)という以上に、仕事の内容を理解させるのは困難だと思つた。

(2) 昔の足利織物と今のようす

資料 めいせんの出来るまで(資料記略)足利織物のうつりかわり(記略) NO11 12 13 14 15 プリント

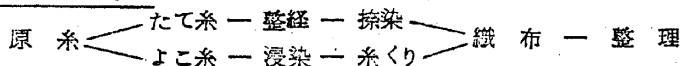
西暦	世の中のうつり変わり	足利の歴史と足利織物
年	とおいむかし	今から7~8000年前から人が住みはじめ、かりをしたり、木の突などをとつてくらしていた（えぞ人種）
800	き そ く の 世 の 中 の 世 の 中 の 世 の 中 の 世 の 中	○下野国と上野国にわかれる（国庁は、足利の南、みくりや町あがた）
400		大
500		和
600		奈良
700		○足利の地名生まれる ○かもしかおり、けむしろおりを天皇にさしあげる ○奈良の大仏開眼の時、たくさん足利織物をつかう
800		平
900		○足利学校できる
1000		安
1100		○足利城（両巖山）を作る。藤原ひでさとのしそん足利氏をなのつて居住 ○源義家、足利綱で白旗やじんまく、じんばおりなどを作る
1200		鎌倉
1300	武	○上杉のりさね 足利学校を修理 ○足利氏のふるさととして大切にされる ○足利学校全盛 ○つれづれ草という本に、「足利染」の名がある
1400	士	
1500	室	
1600	町	
1700	江	○足利一番おとろえる ○織物好況となる、渡良せ川から江戸に売り出す
1800	戸	○足利の織物市場はじまる
1900	新	○栃木県一つになる ○明治21年阿毛線、明治40年東武線開通
	し	○大正10年1月1日足利市となる ○昭和26.3.30毛野 28.4.1山辺 29.8.1三重・山前 29.11.1北郷・名草を合併 メリヤス ゴム工業さかんとなる 産業都市として前進
	い	
世	明	
の	大	
中	昭	
	和	

(1) 小巾織物

イ、足利めいせん、ふとん夜具地、結城、友禅染、紋御召、きんしゃ、
(正絹、交織、併用)

かせん服地、ちりめん

ロ、作り方



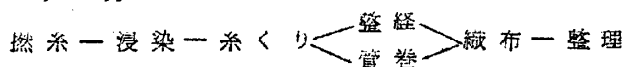
ハ、主な工場

真新織物、森島織物、大宗織物、田辺織物、源田織物 (以上小巾専門)
茂富織物、松金織物、松盛織物 (小巾も広巾も両方)

(2) 広巾織物

イ、オパール、スパンクレープ、絹、シルクオーガンジー、ジョヴセット、
人絹タフタ、人絹裕子、ドビー交織、シヤンタン (輸出用も多い)

ロ、作り方



ハ、主な工場

秋岡、茂富、松金、松盛、津久井輸出織物

(3) 毛織工場

イ、洋服地、毛布、毛糸

ロ、作り方

原毛—紡績—たてよこのじゆんぴ—織布—整理

ハ、三大工場

日紡足利工場、東京繊維足利工場、西野織物工業

(4) メリヤス工場

イ、ジャージー(トリコット)—(子供服地、両ぐつら地などにする)

下着、シユミーズ、ナイロンくつ下(以上たてメリヤス機)

よこメリヤス機(純毛・純毛セター)手動式編機

ロ、作り方

原糸—糸くり—整経—編織—浸染—整理—さいだん—ほうせい—検査

ハ、主な工場

興国化学メリヤス工場、堀田産業、三田編織、吉孫工業、小山織工、住吉編織、
笹野編織、田村経編工業、足利メリヤス整理研究所

(5) ネーム工場

イ、製品につけるマーク(図案や文字)

ハ、福田ネーム、津久井ネーム

(6) 撚糸工場

- イ、糸によりをくれて、織糸のあじを出し強くする
- ロ、日本絹撚山前工場、東洋ナイロン（ナイロン糸のウーリー加工）

(7) その他の工場

- 糸染、布染、一大和染色、小山染色
- おり上がったものの整理加工、一小寅整染、川久染色
- たて糸の型付、一初山捺染、斉藤捺染、原田、藤沼加工

No13

◎足利地区の中に、おもな工場を書き入れてみましょう

◎身のまわりの織物の中に足利織物があつたら集めて整理してみましょう

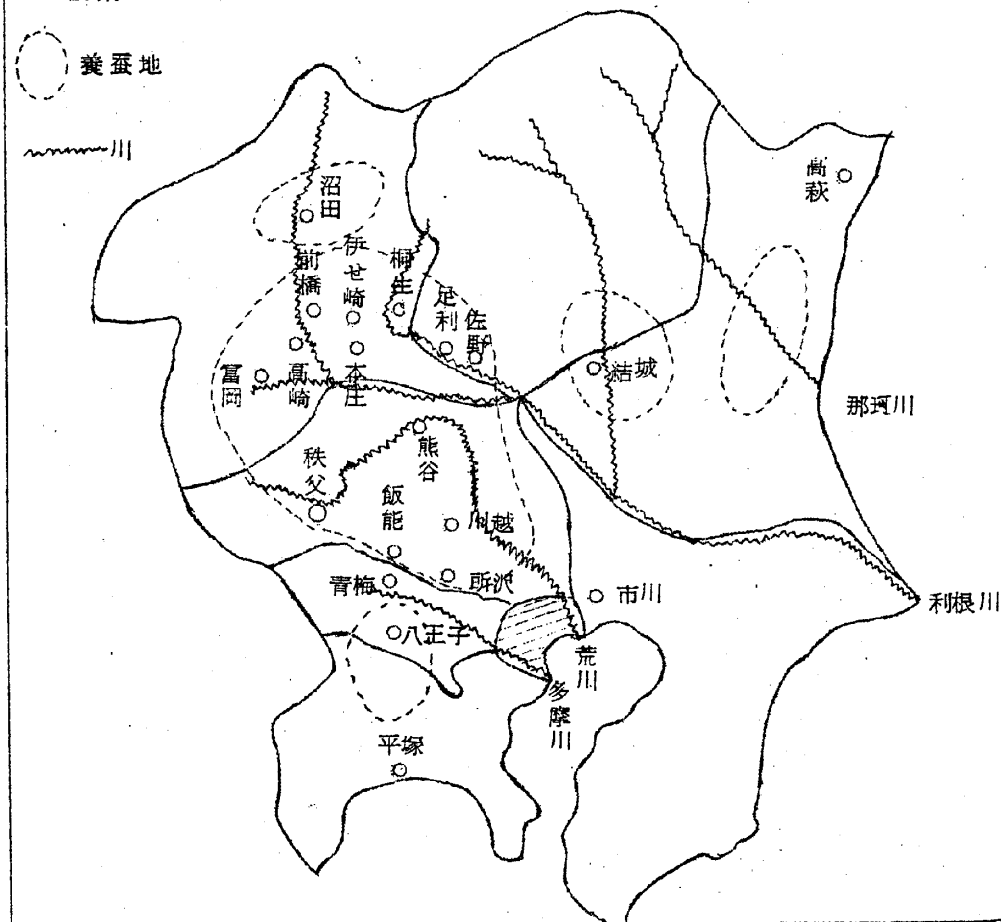
3 関東地方の機業地

No15

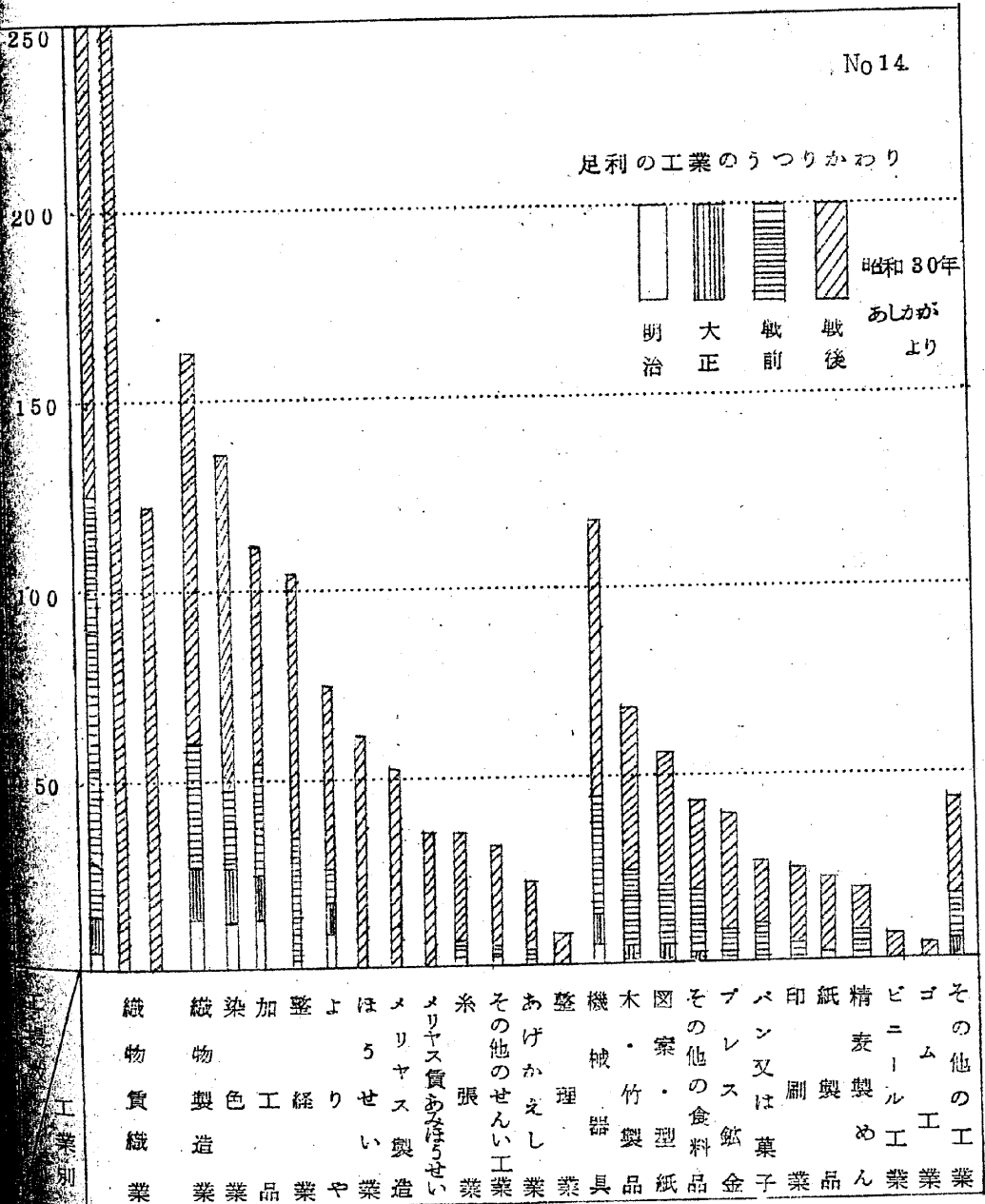
○ 機業地

○ 養蚕地

~~~~~ 川



| 時代  | 明治      | 大正  | 昭和<br>戦前 | 昭和<br>戦後 |
|-----|---------|-----|----------|----------|
| 工場数 | 44<br>1 | 148 | 511      | 1899     |



反省

あまり洞山あとから、あとから資料を与えると、子供は食傷の気味になる。やはり、子供に必要を感じさせてから与えた方がよいと思つた。織物への子供の関心が薄い、サンプル作りは効果があつた。

- (3) 織物工場(小山工場)見学は3月上旬予定
- (4) 関東地方の機業地は、子供がよく理解した。

3 足利の発達しらべ

- (1) 昔のよ5す
- (2) くらしの5つりかわり(人口、交通通信、商業、工業、衣食住、の発達)

資料

新しい社会(大むかしからの生活、衣食住の5つりかわり)社会科地図帳の年表(P45~47) プリント(NO11 15 16 17 18 19) 20 21略一 通信・市民の生活  
 (5) 足利学校 ばんな寺の見学(3月上旬)

○ 足利の発達について

1 足利の人口の5つり変わり

| 年            | 家の数              | 人口               | こと が ら         |
|--------------|------------------|------------------|----------------|
| 享保年間(1720年)  | 841 <sup>戸</sup> | 448 <sup>人</sup> | 238年前          |
| 明治8年(1875年)  | 1885             | 9422             |                |
| " 22年(1889年) | 3307             | 13924            |                |
| " 30年(1897年) | 3812             | 18426            |                |
| " 40年(1907年) | 5010             | 32115            |                |
| 大正10年(1921年) | 6564             | 36648            | 市制施行           |
| 昭和5年(1930年)  | 8290             | 44203            |                |
| " 15年(1940年) | 9657             | 51172            |                |
| " 25年(1950年) | 10837            | 53104            |                |
| " 26年(1951年) | 12914            | 64099            | 毛野村合併          |
| " 28年(1953年) | 16170            | 78890            | 山辺町合併          |
| " 29年(1954年) | 20705            | 103112           | 三重、山前、北郷、名草村合併 |
| " 31年(1956年) | 20681            | 102146           |                |

あしかがより

市勢要覧

グループで分担グラフに作る

## 2. 交通の5つり変り

○足利は古代から開けた土地で、東山道の幹道として、上野から、東北地方に通じる大切な道の駅にあたり、天皇のお使いや、役人、征夷將軍の往復した駈路であつた。

(昔は30里ごとに一つの駅をおいた)

○奈良時代になり、仏教がさかんになると、さびしい所にもお寺やお堂がたてられ、道も発達した

○その後、織物がさかんになり、又、足利学校がたてられ、全国的な学問の中心地ともなつたため、人馬の交通ははげしく道も発達した。

No17

○江戸時代になり、世の中が安定してくると、足利の南のやなだを通る、日光れいへいし街道が、特に大切な交通路であつた。(中仙道→太田市→足利市堀込町→御厨町→梁田→渡良瀬川を渡る→川崎→寺岡→佐野→……→日光)

○江戸時代の足利—江戸間の交通路

足利—梁田—館林—川俣—新郷—行田—鴻巣—桶川—上毛—大宮—浦和—蕨—板橋(88Km)

鎌倉時代にも大体この道を通つた

飛脚で足利—江戸の間を一日で行けるものは、たくさんのひきやくの中で、1、2名だつた。

○わたらせ川を使つて

であつた、江戸時代まで橋がなく、わたし舟で、川をわたつた。

## ③ 両毛線開通

1. 着工 明治20年5月6日(1887年)

工事の進み方

- 小山—佐野 明治21年4月
- 佐野—足利 明治21年5月
- 足利—桐生 明治21年11月
- 桐生—前橋 明治21年11月

## 3. そのころの運ちん

足利—佐野→栃木→小山

|    |     |     |     |
|----|-----|-----|-----|
| 上等 | 20銭 | 30銭 | 20銭 |
| 中等 | 14銭 | 20銭 | 14銭 |
| 下等 | 10銭 | 10銭 | 7銭  |

## 4. 運 転 回 数

上り 三本  
下り 三本

5. 明治21年5月21日開業式

明治39年11月1日国有となる

6 今の足利駅

No18

○ 駅 足利駅 山前駅

○ 自動車駅 東足利駅 西足利駅 三重駅

7 時刻表を見て、今の運転回数をしらべてみましょう

8 今の旅客数

昭和30年 乗車人員 115,3674人 降車人員 113,4656人

収入額 542,787,350円

一日平均 乗車数 3152人 降車数 3100人

◎ 東武線開通

1 明治40年8月27日開通(東京 - 足利)

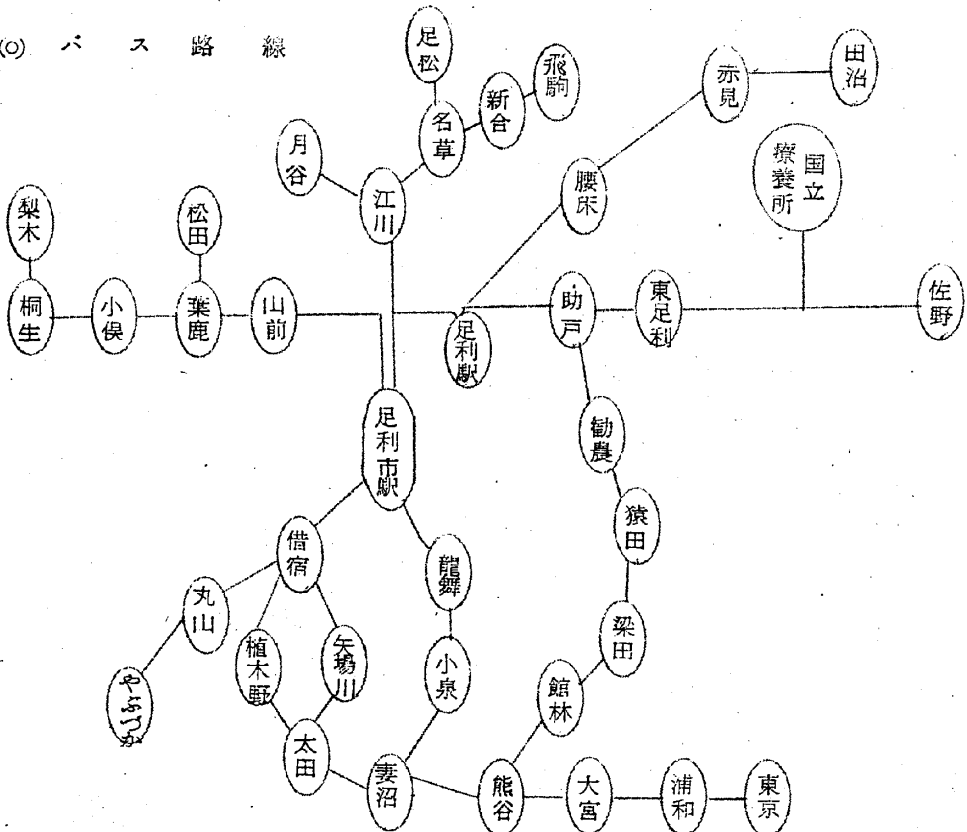
2 はじめは汽車であつたが、昭和2年4月1日電化

3 昭和29年 一年間の 乗車人員 180,0870人 (一日平均 4934人)

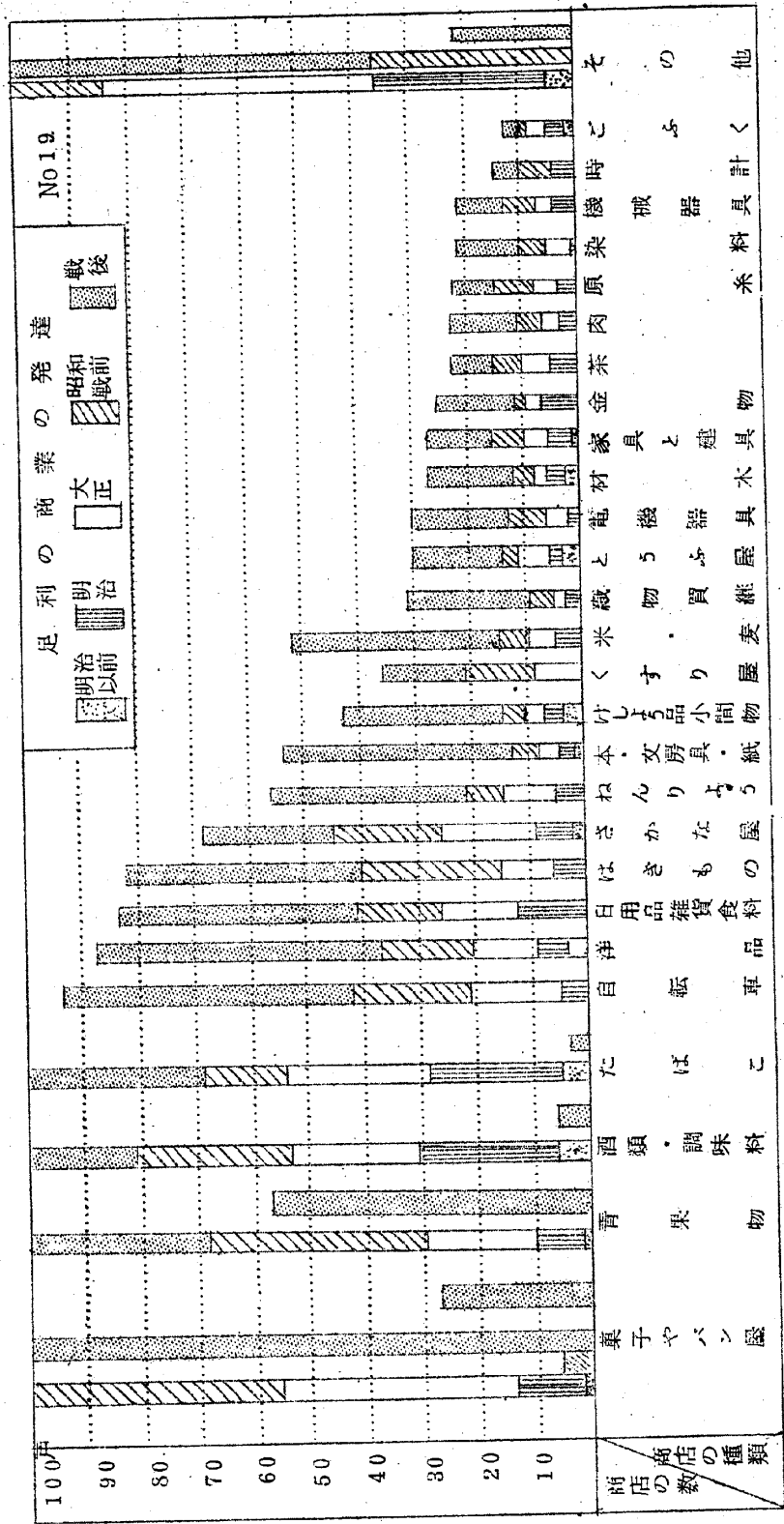
降車人員 179,1188人 ( " 4907人)

収入額 676,408,99円

◎ バス路線



|     |      |     |     |      |      |
|-----|------|-----|-----|------|------|
| 時代  | 明治以前 | 明治  | 大正  | 昭和戦前 | 昭和戦後 |
| 商店数 | 27   | 193 | 289 | 885  | 1080 |



#### 4 いろいろな町の発達

資料 新しい社会

(いろいろな町)日本白地図 地図帳

#### 終りに

無から有は生み出せない。兎に角、子供に与える事だと思つてプリントに精を出して見たが、なかなか思ふようには行かない。「あしかが」の資料を殆んど引用して、ただ印刷しただけに過ぎず、今更恥じ入っている。

ただ「あしかが」の資料集のおかげで、正しい統計資料を得て、前に受持つた4年生に較べて、随分幸福だと思う、あまり盛り沢山過ぎても、子供の力にはならない事と思つて、資料の精選集を今後研究したい。

「あしかが」の発行に、心から感謝すると共に学年主任の清野先生をはじめ、4年の学年の先生方の御援助に心から御礼申し上げたい。